

～『みんなで残したい松江の景観400選集』から景観審議会が特にお薦めする景観～

— No. 367 鑿行列 —

「それぞれのまちが1つになって鑿行列を盛り上げる姿にとっても感動しました。このような素晴らしい伝統行事を、ぜひ後世に継承し、残してもらいたいと思いました」と推薦いただきました。

平安時代の京都の正月行事であった「左義長」が出雲地方に伝わり、「とんど行事」として行われるようになったのがルーツとされ、松江開府後には城下の町方が正月に「鑿」と呼ばれる太鼓を打ち鳴らし、笛やチャンガラで囃し立てていたようです。現在の鑿行列は、大正天皇の御大典の折に行列を成して練り歩いたのが始まりで、近年は10月の第3日曜日に松江神社の例大祭に合わせて行われています。

祭りが近づくと市内のあちらこちらから鑿を叩く音が聞こえ、秋の深まりを感じさせます。歴史や文化を大切にする人びとの営みと体を震わす鑿の響きが一体となった、松江を代表する情景景観です。



「みんなで残したい松江の景観400選集」は、市ホームページでご覧いただけます。
【問い合わせ】まちづくり文化財課 ☎55-5387

松江の景観400選

検索